

6月1日(月曜日)「幸いな人とは」

【新改訳 2017】

詩篇 1・1－6

「幸いなことよ。悪者のはかりごとには歩まず、罪人の道に立たず、あざける者の座に着かなかつた、その人。まことに、その人は主のおしえを喜びとし、昼も夜もそのおしえを口ずさむ。」(1、2節)

6月には、詩篇から祝福を学びたいと思います。字数が限られていますので、背景などの説明はあまりできませんが、記者たちの信仰告白と証しと祈りから、多くの霊的な祝福にあずかることができます。最初に、「幸いなことよ」とありますが、それはこの後述べることがいかに幸いであるかの強調でもありましょう。①まず、否定的な面から述べます。「悪者のはかり

ごと、罪人の道、あざける者」に与しないことです。②次に、肯定的な面から述べます。「主のおしえを喜びとし、いつもそのおしえをくちずさむ」ことです。つまり、悪を拒否し、主のみことばによって喜んで生きることです。そのような人を、主は必ず祝福してくださるのです。

～祈り～

主よ。この詩篇記者のように、単純、明快に幸いの真理を確信し、実践する者にしてください。みことばに従って、是は是、非は非とすることができるよう。

【学びのために】

詩篇は、聖書の中でも最も愛読されている書と言われます。それは、記(著)者である人たちの人生と信仰の生活が、喜怒哀楽を含めて、ありのままに記されていて、共感を呼ぶからでしょう。各詩篇の著

者は表題に記されている以外は不明です。全部で 150 篇(5巻)。